

オーブン カレッジ

第50回衆院選は10月27日に投開票され、自民党と公明党の与党は公示前勢力を減らし過半数を割ることとなりました。一方、野党側も立憲民主党と国民民主党は大幅に議席を増やした半面、日本維新の会や共産党は議席を減らすことになりました。記事を書いている時点では新しい連立の形は発表されておらず、今後の

テキストマイニングを用いたマニフェスト分析

事はさまざまな媒体で見ることができますが、このコラムでは科学の力を借りて考えていきたいと思っています。筆者の今回のコラムでも用いた「テキストマイニング」という分析方法ですが、世の中に発せられた文章や言語を多数収集したのち単語レベルに分解し、それらの語の発生メカニズムを視覚的に読み取っていく方法です。作成した図では、同時に用いられた単語が近くに、使われなかった単語は遠くに配置されます。その後、文章の属性（今回の

とみると、自民は物価、課題、取り組み、支援、拡充。立民は労働、公明と国民は所得、防衛であり、それぞれ別の党の論点が見えてきます。一方、維新は子育て、無償、出産。共産は子ども、賃金、基地というワードが目につきます。もちろん重要なテーマではありませんが、今回の選挙では国民の支持を集められなかったのではないかと推測します。

データ分析の面白さ感じて



名古屋市立大学大学院
経済学研究科准教授
茨木 智

政権の枠組みはこうなっているのか見通せています。

選挙の結果を分析する記

場合は政党名）が使用頻度の多かった単語の近くに配置されます。

今回の分析対象としたテキストは各党のマニフェストです。まず先日の参院選の分析からわかったことは、自民の比較的近くに位置しているのが立民、公明、国民の3党。反対方向に位置するのは維新、共産でした。票を集めた党は自民に近すぎず遠すぎずの主張をしているのではと想像できました。次に特徴ワードを拾っ

場合、今回の選挙では自民と公明は意外にも重ならず、立民と自民は相容れずの距離感が存在していました。そして国民は多くの党と交わっていることが発見できました。現在の連立のキーは国民が握っているとの結論が導かれました。さてこの見立ては当たっていたでしょうか？ 読者の皆さま、

今回の議論のもとになっているデータ分析研究の面白さを感じていただけたでしょうか。

いばらき・さとる オペレー
ションズ・リサーチ、数理計画。
京都大学大学院工学研究科博士
後期課程修了。博士（工学）。
1965年生まれ。